

繰り返し使える梱包材

強度を高め100回利用可能

梱包材の企画・開発を手掛けるスターウェイ

(本社東京都 竹本直文社長)は繰り返し使える

梱包材を開発した。段ボールの強度を高め、約100回繰り返し使用できる。特殊ウレタンフィルムで上下から梱包物を挟み込むパッキングシステムも開発しており、緩衝材が不要になることからコスト削減を提案している。13年9月に物流支援業務を手掛けるトッパン・フォームズと業務提携。通販市場での普及拡大を狙う。

梱包材は従来の段ボール箱と比べて6倍の強度を持つ板紙を採用。約100回は繰り返し使用できる。簡単に組み立て、折り畳むことが可能で、折り畳むと箱の状態の10分の1まで容量を縮小できる。繰り返し使える梱包材と、フィルムで挟み込むことで梱包物を箱の中で宙吊り状態にするパッキングシステム「紙コシテナー」は現在、定期販売を行う企業が採用。大手精密機器メーカー各社も導入している。

定期販売業者が普及が進んでいるのは、緩衝材が不要なことで発注側はもともと、従来梱包資材を廃棄する必要があった受取側にもメリットがある(竹本社長)ためと分析。

トッパン・フォームズによると、組み立てが容易なことや繰り返し利用できることから、従来の届け先に置いてくる方式と比べて物流コストは30%削減できるとしている。

「月間1000件以上の発送量があればコスト削減に効果的」とトッパン・フォームズ商品事業部市場開発本部事業開発部・石田勝環境ビジネス担当(オマネーシャ)と今後の拡大に自信を見せる。

定期販売の場合は巡回の配達時に箱を回収するが、通販の場合は「箱を100%回収すること」が課題(竹本社長)と認識。そのため、通販顧客に対しては商品を梱包する際に着払い伝票を同封して箱の返送を依頼するなど、回収率を高める考えだ。

2014年1月1日
日本流通産業新聞 22面